

ようになって、技術部門から営業に異動になりました。それから44歳で独立して会社を設立し、レッスンプロもしています。昨年はPGAのインストラクター資格も取りました。ゴルフのプレーの技術と指導の技術はまた別物ですので、いかに自分の技術をキープしながら教える技術を高めていけるかを考えています」

—それは、岡田さんにも非常に心強いことなのではないかと思いますが、何か技術的なことをアドバイスすることもあるのですか。

「結婚したころはまだ私はプロではなかったのですが、ゴルフのことを何か言っても『たかがアマチュア』と思っていたようですよ。それがだんだんと私に一目置いて聞いてくれるようになりました（笑）」

自他ともに認める頑張り屋

—岡田さんが長く現役を続けてこられた秘訣は、どこにあると思われませんか。

「ともかくものすごい頑張り屋で、しっかりと自己管理ができる人です。夜ふかしをしたり9時過ぎまで飲んだり、体に悪いことはしません。毎日ジョギングをして、バランスのとれた食事をとって、10時か10時半に就寝しています。基本的には、『うまくいかないのは練習が足りないからだ、もっと努力しなければ』という考え方なんです。ただ、疲れているのに練習をしてもダメです。コンディションの悪いときはメンタル面での対処のしかたが大事ですね。顔色を見ればだいたい調子はわかるので、いかに休ませて、私がストレスのはげ口になってや

るかですね」

—岡田さんのゴルフのスタイルを一言で表わすと。

「正確なゴルフでしょうか。ゴルフはドライバー、アイアン、アプローチ、パットそしてメンタル面でのバランスのとれた総合力を必要とするスポーツです。若い人は当然、飛距離が出ますから、その分、正確さで対抗するんです。背筋・腹筋・足腰を鍛えておくことも必要ですね」

—何か特別にトレーニングをされているのですか。

「オフにはやります。一度、自宅の近くの専修大学の野球部のコーチについてトレーニングをしたことがあります。そこでやり方を教わりました」

—一緒にゴルフをされることはありますか。

「オフにはたまにラウンドします。試合のゴルフは厳しいプロの世界ですが、オフは楽しむためのゴルフですね。昨年はオーストラリアで大橋巨泉ご夫妻と一緒にラウンドしました」

—岡田さんは、ふだんご家庭でお料理をされることもあるのですか。

「ありますよ。外食と半々ぐらいかな。得意料理はカレーライスと、肉じゃがなどの煮物、あとは刺身、なんていったら怒られるかな。（笑）ビールかワインを軽く飲みながら食事をします」

—岡田さんのご趣味は。

「目を休ませるためにテレビはあまり見ないので、よくラジオなどで音楽を聴いています。あとは縫い物が好きでちょこちょこことウエアを直したりして、それがいい息抜きになっているようです。買い物も一緒に行きますが、私は人混みが苦手なので外で待っています」

心の中の葛藤をさりげなくフォロー

—プロゴルファーとしての今後の目標は。

「ともかく前にだれもいない、ルールが敷かれていない未知の世界ですから、自分への挑戦になりますよね。いつまでということはありません。やれるところまでやろうということじゃないんですか。

実は一昨年、一度シード権を失っているんです。ショックだったと思うのですが、翌年の試合の出場権を得るための予選で上位に入り、1年でシード権を取り戻しました」



—それはすごい精神力ですね。

「ええ、よく気持ちが萎えなかったと思います」

—そういうとき、岡田さんはご主人に自分の悩みを隠そうとするのか甘えるのか、どちらのタイプですか。

「見せないようにするタイプでしょうね。でもチラチラと見せるというか、ああ、自分の中で葛藤しているんだというのが見ていてわかるんです。本当に悩んでいるときはやさしくして、ただ甘えているだけのときはハッパをかけるようにしています」

—岡田さんは後進の選手に対してどのような印象をお持ちでしょうか。

「自分が納得するまで練習しているか、ということをよく言っているようです。彼女たちのときは人に隠れて練習をした時代でしたから、いまはその点、練習環境に恵まれているので練習しないのはもったいないと思っているようです」

—今シーズンの調子はいかがですか。

「前半はあまり調子が良くありませんでした。花粉症対策に失敗してしまったんです。ふだんは主治医がいて何でも相談しているのですが、そのときだけ違う先生にかかってしまって。花粉症の注射がとても強い薬で、2ヵ月ほど神経がマヒしてしまいました。

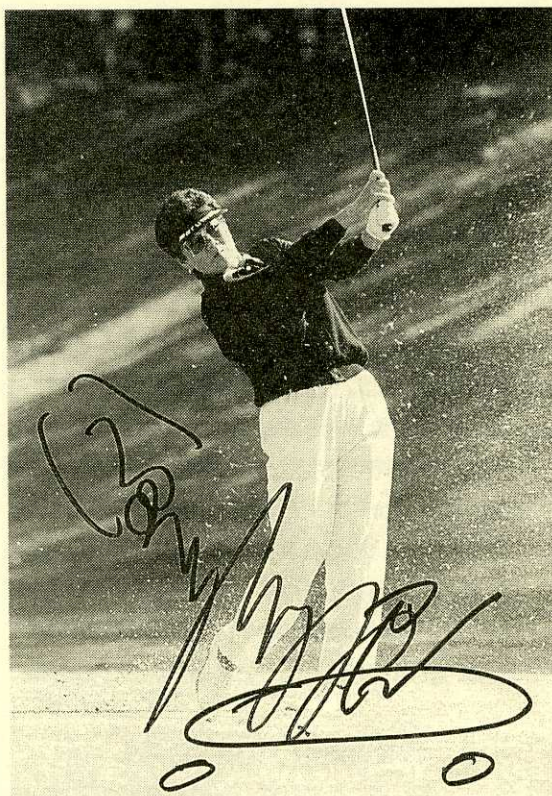
ふつうの人なら何でもないところですが、スポーツ選手には禁物なんです。それが尾を引いているようですね。今回、発熱したのも、滅多にないことなのですが、かなり疲れがたまっていたのでしょう。ここで1週ツアーを休むことにしましたが、今年の後半戦に向けていい休養になると思います」

◇

数日後、岡田さんにお電話でお話しする機会があったので、同様の質問をしてみました。以下は、岡田さんの答です。

「私はプロ入りして29年目ですが、まさか今まで現役を続けられるとは思っていませんでした。これは周りの環境のお陰、特に主人の協力あればこそと思っています。私は3月から11月、ずっと家にいなくて週に1日しか主婦ができないわけですから、よく我慢してくれていると思います。ツアーを観戦しに来てくれることもあります。だから優勝することが恩返しだと思って、いつもプレーしています。

若い選手には、私が学んできたことを教えてあげたいと思います。そしてよく練習をしてもっと強くなって米国ツアーにもチャレンジしてほしいですね。



▲優勝した大王製紙エリエール女子オープン

私自身は、今年の前半はまた記録を作りたいと、つい自分にプレッシャーをかけ過ぎていたような気がします。後半は気負わず、流れの中で楽にやっていきたいですね。そして、私はゴルフに賭けているし、好きですからいつまでも現役でいたいと思っています」

ご主人から伺ったお話と、全てピタリと一致していたことに驚きました。お互いの立場や状況を十分に理解し合っていることに感心しました。ゴルフにおいても私生活でも、岡田さんにとってこんな心強いインストラクターはいないでしょう。岡田さんにお目にかかれなかったのが残念でしたが、お互いを大切に思いやるとてもうらやましいご夫婦だと思いました。今後の岡田さんの益々のご活躍を期待しています。

(7月8日取材・聞き手/WSFジャパン・スタッフライター 山本尚子)